

日本語と英語の対照研究

関連キーワード: 認知言語学 言語文化論 意味論

研究内容

英語の絵本とその日本語版、または日本語の絵本とその英語版を比べてみると、原文の内容がそのまま訳されているわけではないことに気づきます。(1)は既に天国にいるBadgerについての話なので、(1a)の英文は当然過去形ですが、(1b)の日本語ではまず2つの文に分かれ、その2文とも現在形になっています。また(2a)は、夕食や森について話しているようだったと会話の話題のみを挙げていますが、(2b)は、「森のくらしはどうか」など、実際の会話を再現するように訳されています。(1)(2)ともに、日本語の方が、自分も物語の中にいるような、臨場感のある表現になっていると思いませんか？

- (1) a. Badger was dependable, reliable, and always ready to lend them a helping paw. (Badger's Parting Gifts)
b. アナグマはかしこくて、いつもみんなにたよりにされています。こまっている友だちは、だれでも、きっと助けてあげるのです。(『わすれられないおくりもの』)
- (2) a "Whoo-whoo-who-who-who-whooooo,"
just as if he and the owl were talking about supper or about the woods or the moon or the cold. (*Owl Moon*)
b. "ほうーほう ほ・ほ・ほ ほうー"
まるでね とうさんとみみずくはおしゃべりしてるみたいだった 森のくらしは どうかとか こんやは 月がきれいですねとか なんてさむい夜でしょう とかね (『月夜のみみずく』)

ある言語を他の言語に直訳した時、文法が正しくても、不自然に聞こえることがあります。同じ出来事を表すにしても、英語と日本語にはそれぞれの好むスタイルがあり、それには日英の話者による世界の眺め方の違いが反映されています。英語らしさ、日本語らしさを知ることは、外国語学習だけでなく、異文化理解にも繋がります。

研究者プロフィール

- ・ 文学部 教育学科 准教授 大友麻子
- ・ 専門分野 言語学
- ・ 研究分野 認知言語学 言語文化論 意味論
- ・ 所属学会 The Australian Linguistic Society 日本言語文化学会
絵本学会 大学英語教育学会
- ・ 主な取組 小学校教員のための中学英語免許取得認定講習講師 兼
コーディネーター 宮城県教育委員会英語研修会講師
宮城県教育委員会教科書採択に係る審査委員会外部委員

地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ他

- ・ 小学校、中学校、高等学校の先生方との共同研究や支援など

研究者への連絡先

- ・ otomo [at] mail.tohoku-gakuin.ac.jp